

万華鏡

甲府商業高校 図書室
令和3年10月
NO.4

時間を忘れて、読書に夢中！

全国的な読書週間（10月27日～11月9日）

読書週間は戦後間もなく昭和22年、まだ戦火の傷跡が残っているころ、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店・公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって11月17日から第1回「読書週間」が開催されました。翌年から期間も文化の日を中心にした2週間（10月27日から11月9日）と定め、全国に広がっていきました。

集中しやすいこの時期にたくさんの本を読んで、お気に入りの1冊を見つけましょう。



新着本紹介



『養老先生、病院へ行く』

養老孟司・中川恵一／著 エクスナレッジ

書籍紹介：自身の大病、愛猫の死。養老孟司が医療との関わり方、病院嫌いの本当の理由、医療の限界と可能性、人生と死への向き合い方を、みずからがん患者である東大病院の名医とともに語る...

『六人の嘘つきな大学生』

浅倉秋成／著 KADOKAWA

書籍紹介：成長著しいIT企業「スピラリンクス」の最終選考。最終に残った六人が内定に相応しい者を議論する中、六通の封筒が発見される。そこには六人それぞれの「罪」が発見されていた。犯人は誰か、究極の心理戦スタート。

『硝子戸のうちそと』

半藤茉莉子／著 講談社

書籍紹介：年を重ねると同じものが別のように見え、かぎりなく愛しくなってくる。一族の歴史、近所のよなしごと、仲間たち、そして夫との別れ。漱石の孫である著者によるエッセイ集。

『日本を寿ぐ 九つの講演』

ドナルド・キーン／著 新潮社

書籍紹介：日本人は島国根性ではない、なぜか？ アイヌの人びとを尊んだ松浦武四郎とは？ 岩倉具視を团长とする米欧使節団は何を見たのか？ 明治天皇の覚悟とは？ アメリカの小学生はなぜ俳句をつくるのか？ 石川啄木の喜び、泉鏡花文学の美しさ……忘れ得ぬ人びとと文化への深い愛惜を語る9編を精選。

『どうしても頑張れない人たち』

宮口幸治／著 新潮社

書籍紹介：「頑張る人を応援します」。世間ではそんなメッセージがよく流されるが、実は「どうしても頑張れない人たち」が一定数存在していることは、あまり知られていない。彼らはサボっているわけではない。頑張れないがゆえに、切実に支援を必要としているのだ。頑張りがわからず、苦しんでいるのだ。大ベストセラー『ケーキの切れない非行少年たち』に続き、困っている人たちを適切な支援につなげるための知識とメソッドを、児童精神科医が説く。

『大切な人は今もそこにいる』

千葉望／著 理論社

書籍紹介：大事な人を失う、それはいったいどういうことなのでしょう。たとえ一人の死であっても家族や恋人、友人などにとってはかけがえのないひとりを失うことです。陸前高田と東京、妹・トシの死にまつわる賢治の作品が、三月十一日とひびきあう。大災害時代の死について考える。陸前高田の実家が避難所となった著者。震災後10年、伝えたいこと。

『笹の舟で海をわたる』

角田光代／著 毎日新聞社

書籍紹介：あの日、思い描いた未来を生きていますか？豊かさに向かう時代、辛い過去を葬ったまま、少女たちは幸福になったのだろうか。激動の戦後を生き抜いたすべての日本人に贈る感動大作！

『神様の民』 辻村深月／著 文藝春秋

『夜行秘密』 カツセマサヒコ／著 双葉社

『家庭教室』 伊東歌詞太郎／著 KADOKAWA

『虹色ぼたる』 川口雅幸／著 アルファポリス

『はじめの沖縄』 岸政彦／著 新潮社

『異文化コミュニケーション学』 鶴飼玖美子／著 岩波書店

『武器ではなく命の水をおくりたい』 宮田律／著 平凡社

『日本史見るだけブック』 福田智弘／著 辰巳出版

『野球が好きすぎて』 東川篤哉／著 実業之日本社

『武田信玄入門』 萩原三雄／著 山梨日日新聞社

『20歳のソウル』 中井由梨子／著 幻冬舎

『透明な螺旋』 東野圭吾／著 文藝春秋

など…



返却期限が過ぎていませんか？

夏休み前に借りた本を返していない人はすぐに返却しましょう。

